

日本精神科看護学術集会専門I・IIを統合し、

今年から「専門学術集会」としてリニューアルします。



第23回

日本精神科看護専門学術集会 in 新潟

2016.11.26(土) ▶ 11.27(日)

と き
朱鷺メッセ(新潟コンベンションセンター)

《学術講演》

オープンダイアログの理解と実践

齋藤 環(筑波大学医学医療系社会精神保健学)

《パネルディスカッション／実践セミナー》

【退院支援】精神科医療に求められるこれからの退院支援を考える
～「看・看連携」を重視した退院支援の取り組み～
コーディネーター／吉川隆博(東海大学健康科学部看護学科)

【精神科救急・急性期看護】精神科救急・急性期病棟の役割と課題
～病床機能分化に伴う看護実践のあり方～
コーディネーター／畠山卓也(公益財団法人井之頭病院)

【認知症看護】作業療法士から学ぶ技(ワザ)「食事介助を変えれば食べ方が変わる」
コーディネーター／大塚恒子(一般財団法人仁明会精神衛生研究所)

《テーマセッション》

- ① 訪問による早期支援(危機介入)に関する看護の取り組み
- ② 心理的アプローチに関する看護の取り組み
- ③ 患者・家族も含めたソーシャルネットワークを重視した看護の取り組み

《特別講演》「虐待と父性～フィンランドの看護師たちの家族ケア～」
講師／ピリヨ・コトカモ(お母さんと子どものためのシェルター連盟・精神科看護師)

《特別企画》「水中毒裁判～最高裁判決で問われる看護の基本～」
講師／吉浜文洋(佛教大学保健医療技術学部看護学科)

《精神科認定看護師実践報告》

そのほか、全150題を超える一般演題A(看護研究発表、実践報告、業務改善報告)や多彩なラインナップの一般演題B(ワークショップ・交流セミナー)も数多く行われます。

お問い合わせ先：一般社団法人日本精神科看護協会 TEL 03-5796-7033 www.jpna.jp

主催：一般社団法人日本精神科看護協会、一般社団法人日本精神科看護協会新潟県支部
後援：新潟県、新潟市、新潟県精神科病院協会、公益社団法人新潟県看護協会、新潟県精神医療機関協議会
特定非営利活動法人新潟県精神障害者家族会連合会
詳細は日本精神科看護学術集会専用ホームページをご覧ください ▶ <http://jpna-gakujutsu.jp/>

前夜
11/25(金)
18:00-19:00
プレコンgres開催!

精神看護の未来を変えよう!
認知行動理論をベースにした
認知行動療法によるアプローチ

岡田佳詠
(筑波大学医学医療系
精神保健看護学)

第23回 日本精神科看護専門学術集会 in 新潟

11/25 (金) 18:00-19:00 プレコンgress

「精神看護の未来を変えよう! 認知行動理論をベースにした認知行動療法によるアプローチ」
岡田佳詠 (筑波大学医学医療系精神保健看護学)

プログラム	11/26 (土)	9:15 受付	9:50 開会式	10:00~11:50 学術講演 「オープンダイアログの理解と実践」 斎藤 環 (筑波大学医学医療系社会精神保健学)	12:10~13:10 昼食 ランチョンセミナー	13:25~17:20 パネルディスカッション【退院支援】 テーマセッション① 危機介入 特別講演「虐待と父性~フィンランドの看護師たちの家族ケア~」 一般演題A・B
	11/27 (日)	9:15 受付	9:30~11:45 実践セミナー【認知症看護】 テーマセッション② 心理的アプローチ テーマセッション③ ソーシャルネットワーク 一般演題A・B	12:00~13:00 昼食 ランチョンセミナー	13:15~15:30 パネルディスカッション【精神科救急・急性期看護】 一般演題A・B 精神科認定看護師実践報告 特別企画「水中毒裁判~最高裁判決で問われる看護の基本~」	

※プログラムや時間等は一部変更することがあります

学術講演

オープンダイアログの理解と実践

講師 / 斎藤 環

筑波大学医学医療系社会精神保健学 教授

「開かれた対話」を意味する「オープンダイアログ」。フィンランド西ラップランド地方にある病院で1980年代から実践が続けられてきた。この手法が注目を集める理由は、高い治癒率にある。依頼から24時間以内に専門のチームによって状態が改善するまで、患者や家族や関係者等と交えて「対話」する、といったこの手法について解説する。

斎藤 環 (さいとう・たまき)

筑波大学医学医療系社会精神保健学 教授

1980年 筑波大学医学専門学群 (環境生態学専攻) 卒業

1990年 同大学院医学研究科博士課程修了
医学博士

1987年 爽風会佐々木病院勤務。同病院診療部長などを務めた

2013年 筑波大学医学医療系保健医療学域社会精神保健学分野 教授
(筑波大学医学群看護学類・大学院人間総合科学研究科
ヒューマン・ケア科学専攻社会精神保健学研究分野 教授)



パネルディスカッション【退院支援】

精神科医療に求められるこれからの退院支援を考える

~「看・看連携」を重視した退院支援の取り組み~

コーディネーター / 吉川隆博 (東海大学健康科学部看護学科)

精神科医療の将来像の実現に向けて、「新たな長期入院患者を生み出さない!」ことを看護者の目標にしていきたい。そこで、入院長期化を防ぐためには「入院完結型の医療」から「地域完結型」の医療にシフトすることが必要である。今回は看護の強みを活かした「看・看連携」をテーマに、入院部門の看護師と地域部門(外来・在宅)の看護師による退院支援の方法についてディスカッションしていきたい。

パネルディスカッション【精神科救急・急性期看護】

精神科救急・急性期病棟の役割と課題~病床機能分化に伴う看護実践のあり方~

コーディネーター / 畠山卓也 (公益財団法人井之頭病院)

精神科救急・急性期病棟は、3ヶ月という入院期間の中で、患者との援助関係を形成しながら対象理解を深め、患者が在宅生活に移行できるよう支援することが求められている。本プログラムは、精神科救急・急性期病棟における看護実践のあり方について、これまでの経緯を踏まえながら再考し、よりよい看護実践を提供するための方略についてディスカッションする機会として位置づけている。

実践セミナー【認知症ケア】

作業療法士から学ぶ技(ワザ)「食事介助を変えれば食べ方が変わる」

コーディネーター / 大塚恒子 (一般財団法人仁心会精神衛生研究所)

スプーン操作を変えるだけで、重度認知症の方でも、安全にスムーズにきれいに食べられるようになる。口を開けてくれない、口の中にため込んでしまう、むせやすい等々……食事介助の場面における困難はたくさんある。介助を受ける認知症高齢者にとっても、介助する側の看護師にとっても、困難を感じる食事場面をどのように改善していくのか。ケースに合わせた具体的な工夫を、デモンストレーションを通してお伝えする。

11/25 (金) 18:00-19:00 プレコンgress

精神看護の未来を変えよう! 認知行動理論をベースにした認知行動療法によるアプローチ

講師 / 岡田佳詠 (筑波大学医学医療系精神保健看護学 准教授)



精神看護をめぐる状況が多様化するなか、従来の看護に認知行動理論をベースとする認知行動療法を導入することが不可欠になっている。看護師が患者との協同関係を基盤に認知行動理論の枠組みでアセスメントしアプローチするプロセスは、患者が将来、問題や課題の解決に取り組むための自律性を高め、病気とうまく付き合い、QOLの向上をはかる上で役立つと考えられる。精神看護の未来が認知行動療法で一層明るくなることを期待したい。

>> 参加費 (プレコンgress参加費含む)

会員 事前申込: 12,960円 (税込) / 当日申込: 15,120円 (税込)

非会員 事前申込: 23,760円 (税込) / 当日申込: 25,920円 (税込)

※プレコンgressのみ参加 事前申込・当日申込ともに: 会員 1,080円 (税込) 非会員 2,160円 (税込)

>> お申し込み方法

① インターネットの場合

学術集会専用ホームページの「第23回日本精神科看護専門学術集会 (新潟県) Web申込」からお申し込みいただけます。

② FAXの場合

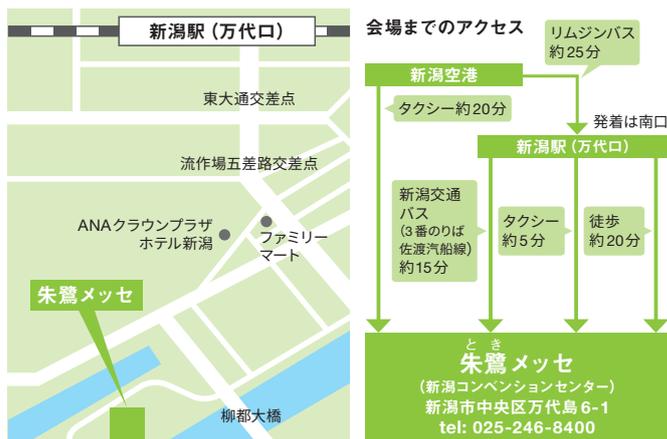
パンフレット「第23回日本精神科看護専門学術集会 (新潟県) ご案内」の参加申込書に必要事項を記入し、下記のお申し込み先へ送信してください。参加申込書は、学術集会専用ホームページからダウンロードできます。

>> お申し込み先

東武トップツアーズ新潟支店「第23回日本精神科看護専門学術集会 (新潟県)」係
TEL: 025-243-1515 FAX: 025-243-2255 担当: 濁川 (にごりかわ)、栗原 (くわばら)

※お電話でのお申し込みは受け付けておりませんので、ご了承ください

※会員とは、一般社団法人日本精神科看護協会の会員をさします



事前申込受付期間: 2016年8月1日(月)~10月31日(月) ※左記期間後は当日申込の参加費となります